

## 1. 総論

## 【総括判断】「管内経済は、緩やかに持ち直している」

項目	前回（4年7月判断）	今回（4年10月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→

（注）4年10月判断は、前回7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

## （判断の要点）

個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、持ち直しつつある。

## 【各項目の判断】

項目	前回（4年7月判断）	今回（4年10月判断）	前回比較
----	------------	-------------	------

個人消費	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
生産活動	一進一退の状況にある	一進一退の状況にある	→
雇用情勢	持ち直しつつある	持ち直しつつある	→

設備投資	4年度は増加見込み	4年度は増加見込み	→
企業収益	4年度は増益見込み	4年度は増益見込み	→
住宅建設	前年を下回っている。	前年を上回っている。	↗
輸出	前年を上回っている。	前年を上回っている。	→

## 【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの新たな段階への移行が進められる中、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

## 2. 各論

### ■ 個人消費 「緩やかに持ち直している」

百貨店販売は、緊急事態宣言中であった前年の反動により、前年を大きく上回っている。スーパー販売、コンビニエンスストア販売は、前年を上回って推移している。乗用車販売は、半導体不足等の影響による供給の遅れの反動増から、足下で前年を上回っている。ドラッグストア販売は、感染症の再拡大による医薬品の売上増加などから、前年を上回って推移している。家電大型専門店販売は、オリンピック需要の反動減などにより、前年を下回って推移している。ホームセンター販売は、引き続き堅調に推移している。旅行取扱高は、7月以降、感染症が再拡大したものの、国内旅行を中心に復調している。

(主なヒアリング結果)

- 緊急事態宣言下であった前年の反動で売上は大幅増。秋物衣料への衣替えが少しずつみられる中、ピークを目指した9月の連休が台風のため、一部休業となり逆風となった。(百貨店、大企業)
- 売上は前年比プラスで推移しているが、値上げ分が反映されたものであり、客数や買い上げ点数が増加しているわけではない。(スーパー、中小企業)
- 天候不順や緊急事態宣言下であった昨年の反動増のほか、販売価格の見直しにより、売上も増加している。(コンビニ、大企業)
- 引き続き、半導体不足やコロナ感染による海外工場の封鎖に伴う減産によって出荷に遅れが生じている。納期の遅れは車種によって異なるが、平均して半年程度。当面は納車の遅れが続く見込み。(自動車販売、中小企業)
- コロナウイルス第7波の影響があり、予想よりは下回ったが、前年度から大幅に増加しており、堅調に回復している。(旅行代理店、中堅企業)
- 全国旅行支援開始の報道後より問い合わせが続いており、10月以降の予約者数が増加する見込み。西九州新幹線開業に伴うイベント開催も予定されており、更なる人流の増加が予想される。(宿泊、中小企業)
- コロナウイルス感染拡大による行動制限や天候不順の影響を受けた前年と比べると入場者数は大幅に増加。今後の全国旅行支援についてはプラスの材料として期待している。(娯楽、大企業)
- 原材料価格や電気代・ガス代の高騰をうけて、7月に商品の値上げを実施したが、同月以降も価格が上昇し続けており、コロナウイルスの感染状況ではなく、コスト負担の増加が最大の懸念事項となっている。(飲食、大企業)

### ■ 生産活動 「一進一退の状況にある」

輸送機械の自動車は、徐々に持ち直しつつある中、足下で弱含んでいる。鉄鋼は、自動車向けを中心に前年を下回っている。電子部品・デバイスは、産業機械向けや家電向けを中心に堅調に推移している。造船は、一定の受注残高及び操業を維持している。このように、生産活動は一進一退の状況にある。

- 9月までは自動車生産台数が回復傾向にあったが、10月は再び部品供給不足が顕在化し、製造ラインの大幅な稼働停止が予定されている。(輸送機械、大企業)
- 自動車メーカー減産により自動車向け製品を中心に生産量は前年を下回って推移している。なお、為替相場やエネルギー価格の上昇によって製造コストが増加しているものの、取引先との値上げ交渉が進展していることから収益性は以前より改善している。(鉄鋼、大企業)
- 産業機械向け、エアコン向けを中心に引き続き堅調。自動車メーカーの部材不足による生産調整は継続中だが、今期は前年比でプラスを維持。(情報通信機械、大企業)

### ■ 雇用情勢 「持ち直しつつある」

有効求人倍率は緩やかに改善しているほか、新規求人数も前年を上回って推移するなど、雇用情勢は持ち直しつつある。

- 旺盛な半導体需要のため工場のフル稼働が続いており、引き続き人手不足。コロナ第7波の際には工場内での感染者数も増加し、不足感が特に顕著に表れた。今後も継続的に派遣社員や中途採用の募集を行う。(非鉄金属、大企業)
- 施設稼働率の回復に伴い人員の募集を行っているが、離職率も高く人手不足の解消には至らない。アルバイトも集まりにくい状況のため、今後は時給をアップして募集をかける予定。(宿泊、中堅企業)
- コロナ第7波があつたなかでも、有効求人倍率及び新規求人数は前年を上回って推移しており、雇用情勢は緩やかに改善している。一方で、感染再拡大の影響を受け、飲食業の新規求人数が前年を下回るなど一部で厳しさがみられる。(公的機関)

■ **設備投資 「4年度は増加見込み」** (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年7-9月期

- 製造業では、「自動車・同附属品」等で減少見込みとなっているものの、「非鉄金属」、「情報通信機械器具」等で増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では、「不動産」等で減少見込みとなっているものの、「運輸、郵便」、「小売」等で増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。

➢ 通信関連や自動車向けなど広範囲で需要拡大が継続しており、シリコンウエハー関連の高精度化・生産能力増強の大型投資を実施するため、増加見込みとなっている。(非鉄金属、中堅企業)

➢ 昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、投資の抑制を行い、維持更新が中心であったが、今年度は維持更新に加え、ビル建設などを予定しており、増加見込みとなっている。(運輸、郵便、大企業)

■ **企業収益 「4年度は増益見込み」** (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年7-9月期

- 製造業では、「窯業・土石製品」等で減益見込みとなっているものの、「電気機械器具」、「非鉄金属」等で増益見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。
- 非製造業では、「建設」等で減益見込みとなっているものの、「運輸、郵便」、「小売」等で増益見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。

■ **住宅建設 「前年を上回っている」**

- 新設住宅着工戸数で見ると、持家、分譲住宅が減少しているものの、貸家が増加していることから前年を上回っている。

■ **輸出 「前年を上回っている」**

- 輸出 (円ベース) は、前年を上回っている。なお、輸入 (円ベース) は、前年を上回っている。

(その他項目)

- 企業の景況感を法人企業景気予測調査 (4年7-9月期) の景況判断BSIで見ると、4年7-9月期は、引き続き「下降」超となっている。先行きについては、4年10-12月期は、「上昇」超に転じる見通しとなっている。

3. 各県の総括判断

	前回 (4年7月判断)	今回 (4年10月判断)	前回比較	総括判断の要点
福岡県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、持ち直しつつある。
佐賀県	持ち直しつつある	持ち直しつつある	➡	個人消費は、持ち直しつつある。生産活動は、一部に供給面での制約や原材料価格高騰の影響がみられるものの、持ち直しつつある。雇用情勢は、持ち直している。
長崎県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。